

教科名		美術	科目名	美術	履修学年	中学 高校	1 年		全 組	
単位数		週当たり 1.5時間	使用教科書 補助教材等		美術 1（ 光村出版株式会社）					
担当者		高原尚司			資料集 感じる表す美術					
学習目標		造形的なよさや美しさなどを感じ取り、想像力を働かせて、主題を表現する能力と態度を育てる。 目的や条件に応じて豊かな発想をし、構想を練り、デザインし制作する能力と態度を育てる。 自然や造形作品を鑑賞し、そのよさや美しさなどに関心を持ち、深く味わう能力と態度を育てる。								
評価方法										
評価観点		知識・技能			思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む姿勢		
評価規準		・ 形や色彩、材料、光などの性質や、それらが感情にもたらす効果などを理解することができる。 ・ 材料や用具の特性を生かし、意図に応じて工夫して表現することができる。			・ 対象や事象を見つめ感じ取った形や色彩の特徴や美しさ、想像したことなどを基に主題を生み出すことができる。また全体と部分の関係などを考え、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練ることができる。			・ 美術の創造活動の喜びを味わい、感じ取ったことや考えたことなどを基にした表現を含む学習活動に釣り組もうとしている。		
各観点の授業内 評価方法等		学年末考査 作品 鑑賞等のワークシート			デザインの下描き等のワークシート 作品			授業態度（話を聞く姿勢、提出物、持ち物）		
学期末の 各観点比率(%)		30			35			35		
授業計画										
学期	月	学習内容・学習単元・学習到達目標等						時間 数	評価 区分 1	評価 区分 2
1	4	「 色彩の学習」 色相環や色の三要素とその相互の関連について理解し、 軽重、 寒暖の感じについて学ぶ。それらをもとに混色や重色による色の作り方を学ぶ。美しい配色や、イメージに合った配色を意図的に工夫できるようにする。						4	十二の色相環	
	5									
	6	「 漢字からのイメージによる平面構成」（ デザイン） 漢字をもとに自由にイメージさせ、発想を広げる。そのイメージにふさわしい形や色の表現を工夫する。 レタリングの要領を知り、基本書体が正しくかけるようにする。 用具や材料の特徴を生かした楽しいイメージのデザインができるようにする。						6	絵 文 字 作 品	
	7									
	8									
2	9	「 遠近法・図法」 物事が立体的に見える原理や法則を学び、理解する。						2	ワークシート	
	10	「 こいのぼり 制作」（ 工芸表現） こいのぼりというテーマで風についてのイメージを膨らませる。 支持体としての和紙の特徴をしっかりと掴み、水彩の効果を生かして表現を試みる。造形に対する創作の工夫ができるようにする。 日本の伝統的な文化・表現に触れてみる。						10	工芸作品	
	11									
	12	「 古代の美術」 （ 学年末のテストに向けて） 古代の美術から（ 美術の成り 立ち） 東西の文明の始まりまでの美術の流れを学習。						3	ワークシート	
3	1	「 立体でとらえる」（ 粘土による表現） 量や動勢など立体を形成する要素に気づいて表現する楽しさを味わう。いろいろな角度から対象を観察し、立体として把握できるようにする。材料の特性を理解し用具を適切、安全に使用して制作する能力を養う。自己の制作意図、作業手順と作業内容を明確にし、計画性をもって作品制作を行う。						10	学年末考査	粘土作品
	2									
	3									

教科名		美術	科目名	美術	履修学年	中学 高校	2年	全	組	
単位数		週当たり1時間	使用教科書 補助教材等	美術 1(光村出版株式会社)・ 美術 2.3(光村出版株式会社)						
担当者		高原尚司		資料集 感じる表す美術						
学習目標		造形的なよさや美しさなどを感じ取り、想像力を働かせて、主題を表現する能力と態度を育てる。 目的や条件に応じて豊かな発想をし、構想を練り、デザインし制作する能力と態度を育てる。 自然や造形作品を鑑賞し、そのよさや美しさなどに関心を持ち、深く味わう能力と態度を育てる。								
評価方法										
評価観点		知識・技能			思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む姿勢			
評価規準		・ 形や色彩、材料、光などの性質や、それらが感情にもたらす効果などを理解することができる。 ・ 材料や用具の特性を生かし、意図に応じて工夫して表現することができる。			・ 対象や事象を見つめ感じ取った形や色彩の特徴や美しさ、想像したことなどを基に主題を生み出すことができる。また全体と部分の関係などを考え、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練ることができる。		・ 美術の創造活動の喜びを味わい、感じ取ったことや考えたことなどを基にした表現を含む学習活動に釣り組もうとしている。			
各観点の授業内 評価方法等		学年末考査 作品 鑑賞等のワークシート			デザインの下描き等のワークシート 作品		授業態度(話を聞く 姿勢、提出物、持ち物)			
学期末の 各観点比率(%)		30			35		35			
授業計画										
学期	月	学習内容・学習単元・学習到達目標等						時間 数	評 価 区 分 1	評 価 区 分 2
1	4	「 モダンテクニック」 筆や鉛筆等の画材に頼らず偶然にできる模様を楽しむ。 モダンテクニックの技法を体験を通して表現の幅を広げる。						6	作 品	
	5									
	6	「 錯視」 目の錯覚の仕組みを理解する。錯視を利用した作画、作図を行う。						2	ワ ー ク シ ー ト	
	7	「 美術史・仏像」 仏像の種類や作り方について、修学旅行の事前学習を兼ねて行う。 仏像は信仰や礼拝の象として作られたものではあるが、美術としての美しさを細部にも目を向け鑑賞する。						2	ワ ー ク シ ー ト	
	8									
2	9	「 ステンドグラスアート・窓の外には？」 グラスアートフィルムに触れてみる。 性質を理解して、どこの窓から見たのか？どんな物や景色が見えるのか？をイメージして題材を練る。 校内のガラスを装飾する。 1 年次に学んだ配色や混色の応用として行う。						10	ス テ ン ド グ ラ ス 作 品	
	10									
	11	「 絵画鑑賞-レオナルド・ダ・ヴィンチとルネサンス」 三大巨匠について学び、西洋美術史に対する理解を深める。 また、なじみある絵画や画家を授業で取り上げる。そこに秘められたストーリーや画家の思いを理解しようとする豊かな心を養う。						5	ワ ー ク シ ー ト	
	12									
3	1	「 漫画の歴史」 現代の日本文化とも言える漫画・アニメについて学び、成り立ちについての理解を深める。 即興性を活かし遠景、近景を意識し漫画として表現する。						4	映 像 作 品	
	2	「 アニメーション作成」 タブレットを使い作画する過程で、操作方法を学ぶ。形態やストーリーにあった発想、即興性などの視覚的構成力を養う。						6	学 年 末 考 査	
	3									

教科名		美術	科目名	美術	履修学年	中学 高校	3 年	全 組		
単位数		週当たり 1 時間	使用教科書 補助教材等	美術 2. 3 (光村出版株式会社)						
担当者		清水恵郁		資料集 感じる表す美術						
学習目標		造形的なよさや美しさなどを感じ取り、想像力を働かせて、主題を表現する能力と態度を育てる。 目的や条件に応じて豊かな発想をし、構想を練り、デザインし制作する能力と態度を育てる。 自然や造形作品を鑑賞し、そのよさや美しさなどに関心を持ち、深く味わう能力と態度を育てる。								
評価方法										
評価観点		知識・技能			思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む姿勢			
評価規準		・ 形や色彩、材料、光などの性質や、それらが感情にもたらす効果などを理解することができる。 ・ 材料や用具の特性を生かし、意図に応じて工夫して表現することができる。			・ 対象や事象を見つめ感じ取った形や色彩の特徴や美しさ、想像したことなどを基に主題を生み出すことができる。また全体と部分の関係を考え、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練ることができる。		・ 美術の創造活動の喜びを味わい、感じ取ったことや考えたことなどを基にした表現を含む学習活動に釣り組もうとしている。			
各観点の授業内 評価方法等		学年末考査 作品 鑑賞等のワークシート			デザインの下描き等のワークシート 作品		授業態度 (話を聞く 姿勢、提出物、持ち物)			
学期末の 各観点比率 (%)		30			35		35			
授業計画										
学 期	月	学習内容・学習単元・学習到達目標等						時 間 数	評 価 区 分 1	評 価 区 分 2
1	4	「 石粉粘土」 思春期という時期を踏まえ、自分の性格や特徴を受け入れ認めていくために自分をもとにしたキャラクターを考える。自己分析を行い、自分の特徴を表したキャラクターを粘土で作成する。そのキャラクターが潜んでいそうな場所を校内で見つけ、風景と一緒に写真を撮る。						7	粘土作品・写真提出	
	5									
	6									
	7	「 印象派・ゴッホ・ジャポニズム」 印象派の画家について学ぶ。ジャポニズムを取り上げ、日本画と洋画のつながり や影響について考察する。						4	ワークシート	
	8									
2	9	「 藍染」 草木染について学ぶ。絞り 染めの技法について学び、自分なりの文様を考えて、藍を染料としてハンカチを染める。						6	作品	
	10									
	11	「 飲料のデザイン」 牛乳パック型の新飲料をデザインする。 企業の企画・開発担当になった気分でオリジナル飲料のパッケージデザインとキャッチコピーの考案をする。						8	作品	
	12									
3	1	「 パブロ・ピカソ」 画家ピカソについて鑑賞を行う。また、デッサンの基礎としてゲルニカを鉛筆で表現する課題を行う。						4	ワークシート	
	2	「 鉛筆デッサン・静物」 形体のとらえ方、明暗、陰影の表し方、比例、均衡、動静など構図を考え立体感を表現する。また材料、用具の適切な使用法を学ぶ。						6	学年末考査	作品
	3									

教科名		芸術	科目名	美術	履修学年	中学・高校	1 年	全（選択） 組		
単位数		週当たり 1 時間	使用教科書 補助教材等		高校生の美術1（ 日本文教出版）					
担当者		清水恵郁								
		小林あかり								
学習目標		造形的なよさや美しさなどを感じ取り、想像力を働かせて、主題を表現する能力と態度を育てる。 目的や条件に応じて豊かな発想をし、構想を練り、デザインし制作する能力と態度を育てる。 自然や造形作品を鑑賞し、そのよさや美しさなどに関心を持ち、深く味わう能力と態度を育てる。								
評価方法										
評価観点		知識・技能			思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む姿勢			
評価規準		・ 形や色彩、材料、光などの性質や、それらが感情にもたらす効果などを理解することができる。 ・ 材料や用具の特性を生かし、意図に応じて工夫して表現することができる。			・ 対象や事象を見つめ感じ取った形や色彩の特徴や美しさ、想像したことなどを基に主題を生み出すことができる。また全体と部分の関係などを考え、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練ることができる。		・ 美術の創造活動の喜びを味わい、感じ取ったことや考えたことなどを基にした表現を含む学習活動に釣り組もうとしている。			
各観点の授業内 評価方法等		学年末考査 作品 鑑賞等のワークシート			デザインの下描き等のワークシート 作品		授業態度（話を聞く姿勢、提出物、持ち物）			
学期末の 各観点比率(%)		30			35		35			
授業計画										
学期	月	学習内容・学習単元・学習到達目標等						時間数	評価区分1	評価区分2
1	4	「レタリング」 「学校行事のためのポスター」（デザイン、鑑賞） ヴィジュアルデザインの一媒体としてのポスターの特性を、他の媒体と比較しながら考え、同時にその社会的役割について広い見地で考える。 伝えるべき内容を、簡潔に力強く、美しく表現できるようにする。 目的や条件に応じた制作方法の工夫。 色彩の効果と使用。						10	ポスターデザイン・作品	
	5									
	6									
	7									
		8								
2	9	「木彫によるカトラリーの作成」（彫塑、鑑賞） 木材の特徴を生かし、スプーンをデザイン・制作する。 電動のこぎり、彫刻刀、小刀の正しい用法について学ぶ。 一方向からの見方だけではなく、三次元的な思考をイメージできるようにする。 実際に使用する時を想定した、造形や手触りを心がける。						15	レポート・木彫作品	
	10									
	11									
	12									
3	1	「写真模写」 自分の好きなものや風景を写真に収め、鉛筆で模写する。 光や影の要素もとらえるようにハッチングや濃淡を工夫する。 自身の好きなものについてクラスメイトと共有する。						10	デッサン作品	
	2									
	3									

教科名		芸術	科目名	美術	履修学年	中学・ 高校	2年	全（選択）組			
単位数		週当たり1時間	使用教科書 補助教材等		高校生の美術1（ 日本文教出版）						
担当者		清水恵郁									
学習目標		造形的なよさや美しさなどを感じ取り、想像力を働かせて、主題を表現する能力と態度を育てる。 目的や条件に応じて豊かな発想をし、構想を練り、デザインし制作する能力と態度を育てる。 自然や造形作品を鑑賞し、そのよさや美しさなどに関心を持ち、深く味わう能力と態度を育てる。									
評価方法											
評価観点		知識・技能			思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む姿勢				
評価規準		・ 形や色彩、材料、光などの性質や、それらが感情にもたらす効果などを理解することができる。 ・ 材料や用具の特性を生かし、意図に応じて工夫して表現することができる。			・ 対象や事象を見つめ感じ取った形や色彩の特徴や美しさ、想像したことなどを基に主題を生み出すことができる。また全体と部分の関係などを考え、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練ることができる。		・ 美術の創造活動の喜びを味わい、感じ取ったことや考えたことなどを基にした表現を含む学習活動に釣り組もうとしている。				
各観点の授業内 評価方法等		学年末考査 作品 鑑賞等のワークシート			デザインの下描き等のワークシート 作品		授業態度（話を聞く姿勢、提出物、持ち物）				
学期末の 各観点比率(%)		30			35		35				
授業計画											
学期	月	学習内容・学習単元・学習到達目標等						時間 数	評価 区分 1	評価 区分 2	
1	4	「 静物画」 これまで取り組んできた美術的な要素を再考し、自分なりのとらえ方で高校最後の美術作品として、静物を表現する。 八つ切り画用紙にメディウムで溶いた絵の具を油絵のように盛って仕上げる。						10	絵 画 作 品		
	5										
	6										
	7										
		8									
2	9	「 鋳造」 錫合金を溶かして、オリジナルのキーホルダー、ブローチ、ペンダントのいずれかの装身具制作する。 石膏や油粘土で型どりを行い、錫合金の鋳造をする。 やすりで磨き、鑿等で自分なりの模様を彫り、仕上げる。						15	レ ポ ー ト ・ 彫 金 作 品		
	10										
	11										
	12										
3	1	「 商品宣伝のための表現・九州土産の考案」 デザインの実感を理解するために架空の商品をイメージし、 その宣伝のための多様性のあるビジュアル的作品を考える。 人単位のタイムスケジュールを組み立て作業の工程を自己管理する。 広告の効果や表現の方法を具体的にプレゼンテーションする機会とし、 その発表の主題とテーマをもとに完成度のある宣伝広告に仕上げる。						10	個	広 告 作 品 ・ プ レ ゼ ン テ ー シ ョ ン	
	2										
	3										